沖縄県護国神社社報

うむい18号

八代家・外間家神前挙式〈平成25年4月21日〉

目次

会長挨拶……二
宮司挨拶……三
沖縄にそそがれる大御心……四
お白石持行事に参加して……六
みたま慰めの舞温習に参加して……七
社頭報告……八
社務日誌抄……十
永代慰霊命日祭
新規申込者、御供奉納者御芳名……十一
のぼり御奉納者……十二
お知らせ、編集後記……十二

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

終戦記念日に想う

会長　座喜味 和則

今年の八月十五日は六十八回目の終戦記念日にあたり、天皇皇后両陛下の御臨席のもとに政府主催全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館にて挙行されました。

式典には全国の戦没者遺族約四千人（沖縄からは四十七人）と各界代表ら合せて約六千人が参列、正午に天皇皇后両陛下が祭壇の前にお立ちになり、ラジオを通じて全国民一斉に黙祷が捧げられました。

次いで天皇陛下が「戦争の惨禍が再び繰り返さないことを切に願い全国民と共に心から追悼の意を表し世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」とのお言葉を述べられました。

追悼の対象は戦死した軍人軍属約二百三十万人と空襲や広島、長崎の原爆投下、沖縄戦などで亡くなられた民間人約八十万人の計約三百十万人であります。

ここ沖縄に於いても沖縄県護国神社で全国戦没者追悼式と同じく正午の時報に合わせて黙祷を捧げ慰霊の祭典が厳かに斎行されました。特に今年は國場幸之助衆議院議員、宮崎政久衆議院議員、儀間光男参議院議員の三名の国会議員をはじめ御遺族崇敬者等約百三十人の方々が参列されました。

また、沖縄宗教者の会の主催にて摩文仁の平和祈念堂で「第二十三回平和と祈りの集い」が県内十六の宗教団体の関係者約五百名が参列して挙行されました。

沖縄戦での戦没者は沖縄県出身軍人二万八千二百二十八人、県外出身軍人六万五千九百八人、一般沖縄県民約九万四千人の計十八万八千余、その外に県出身外地戦没者三万千八百八十五人の計二十二万余人といわれています。

全国戦没者追悼式は昭和二十七年に新宿御苑で催されましたが一時期途絶え、全国戦没者遺族の強い要望によって昭和三十八年八月十五日に日比谷公会堂で復活挙行、翌年には靖國神社境内で挙行され、昭和四十年以降日本武道館で行われて今日に至り戦没者を追悼する日として定着しています。今回は四十五回目を迎えたことになります。

今年の八月十五日に安倍晋三総理大臣が靖國神社に参拝されなかった事は誠に残念ですが、新藤義孝総務大臣、古屋圭司国家公安委員長、稲田朋美行政改革担当相の三閣僚が参拝されました。また超党派の「みんなで靖國神社に参拝する国会議員の会」の先生方二百二人が午前十一時に昇殿参拝されました。当日靖國神社には十七万五千人の参拝者が有りました。

私は安倍首相が靖國神社参拝を早急に決断されることを切に願って止みません。戦没御英霊のご冥福を祈って所感と致します。

日琉同祖の論拠・宗教心意

宮司　伊藤陽夫

沖縄の九月も台風十九号のあと、すっかり秋の風情に変わり、旧暦の十五日の名月を当地独特の「フチャギ」（白い餅に小豆をまぶした餅菓子）をお供えして仰ぎ見る習俗をまなびました。さらに秋分の日はトートーメ（仏壇）のある各家庭ではお祀りごとで気ぜわしいことなどをうかがうにつけ、やはり沖縄の庶民生活にしみ込んでいる、自然神信仰・祖霊信仰のゆるぎない常態に感動をおぼえずにはおれません。

わが沖縄県護国神社では秋分の日の午前九時に秋季皇霊祭遙拝式を厳修しました。大広前を通して宮中皇霊殿に向かって遙拝詞を奏上し、玉串奉奠を所作するだけの簡素な神事ではありますが、その間大広前には爽やかな秋風が吹き通り、畏くも皇居の皇霊殿における陛下の所作の香しき薫風があたかも吹き来たり匂い立つような感に打たれました。古来ヤマトの民族・民俗信仰の全国共通神事の多くは、その根幹は朝廷の行事に発していると言われます。しかし神武天皇の「大孝祭」に発する大嘗祭などの原型は、むしろまさに「民俗」の祖霊信仰にも原点が求められるべきでしょう。遠い淵源は縄文時代の遺跡の中に発見されている葬送儀礼の発生とみられる人骨の痕跡です。

そしてわが国最古の縄文土器が発見されている此処沖縄では、土葬・風葬がしきたりでありました。そこがやがて聖所、御嶽・御願所となってムラ形成の中心になっていきます。墓場の形成も並行して庶民生活の習俗として進展していく状況はよく知られています。即ち沖縄における祖霊信仰の確実なる発生・進展が今日の門中墓や家庭内の位牌祭祀に至っています。その事情の研究はされ尽くしています。最近には『トートーメの民俗学講座』を著した波平エリ子氏などが出色です。祖霊信仰が沖縄の精神風土の中核なのであります。

沖縄の太古からの信仰儀礼が今日の近代社会沖縄における精神的アイデンティティ（中核性格）を形成しているそのパターンは、祖霊信仰の生活儀礼に発した「神道」が今日の近代社会ヤマトにおける精神的アイデンティティを形成しいてる実態と全く同型ではありませんか。いまさら「日琉同祖論」を言うのならば、その論拠はこの辺りの事情を深く究明して求められるべきでしょう。

六世紀になって伝播してきた仏教に対してヤマトは「神道」という呼称でもって信仰生活を弁別するようになりました。ヤマトのそれまでの儀礼・信仰生活を謂うのであって決していわゆる「宗教」ではありません。

沖縄も数世紀遅れで仏教の洗礼にさらされますが、十七世紀になってはじめて浄土宗・僧侶袋中が『琉球神道記』で沖縄の信仰生活の実態を総称するかのように「琉球神道」なる用語を使いました。それ以来ヤマトと似た事情になりました。

さてそこで、申し上げたきことは、この二者同祖型の"宗教心意"によって同一民族が形成されてきたのではないかということであります。しかもそれが尚いまだに現在進行形であり、沖縄県民が欺かず持ち続ける崇高な「祖霊信仰」という習俗が、音楽でいう通奏底音の如きはたらきを為し、主音律の美しい旋律を奏で続けているということであります。

沖縄にそそがれる大御心(了)

編集部

沖縄にそそがれている大御心を、両陛下御来島の回を追って、事実の裏付けを素描しながらお伝えして来ました。期せずして前号の「うむい」特集には第九回御来島記にふさわしい内容になっております。従いまして本欄でまだ触れていない第八回目の御来島にまつわる大御心を仰ぎ見て今回を以て本欄も一旦終結と致します。

陛下"肝いり"の国立劇場

さて両陛下、皇太子時代に五回を経て第八回目の御来島は、計らった訳でもないのに丁度全国の行幸啓を二巡終えられた(平成15年)翌年でもありました。沖縄県が二巡目のトップになりました。これも大御心の自ずからなる畏き(かしこき)事と言えましょう。というのはこのときの御来島のお目当ては、浦添市に建設された「国立劇場おきなわ」の落慶記念のこけら落としの組踊『執心鐘入(しゅうしんかねいり)』をご鑑賞されることでした。

勿論個人的趣味によるものでありません。陛下が沖縄の伝統芸能興隆に寄せられるご熱意が、まさにこの国立劇場の設立を東京、大阪について三番目に実現させた原動力であることは周知のことであります。

平成5年御来島の砌(みぎり)「文化財が戦争で失われた沖縄に伝統の組踊を演じる場があれば」とお話しになられたことがありました。さらに国立劇場完成後このこけら落としにはどなたを御差遣するかを伺ったところ、侍従に「それは私が参ります」と御即答を頂いた由、つとに沖縄にはもれ伝わっていました。陛下の"肝いり"の国立劇場ともいうべきです。

国立戦没墓苑へ直行

平成16年1月23日午後3時過ぎ那覇空港にお着きになられた両陛下は、空港周辺で「天皇、皇后両陛下、ようこそ沖縄県へ」などの横断幕や日の丸の小旗で、歓呼のお出迎えの数百人の県民に、懇ろな応答の会釈の手を振られながら、一路南部の摩文仁ヶ丘に向かわれました。平和祈念堂に立ち寄られたのち、国立戦没者墓苑で白い菊の花束の供花とともに慰霊の黙祷を捧げられました。お迎えに出ていた沖縄県遺族会連合会会長の座喜味和則氏ほか遺族代表18名の一人一人に懇ろなお声掛けを頂きました。座喜味会長は「陛下から『遺族の方々も高齢になり、会長も大変でしょうが頑張ってください』と温かいお言葉に、また一人一人にお声掛け下さったことに両陛下に御礼申し上げました」と述懐してます。

組踊「熱心鐘入」をご鑑賞

その夜、開演時間前に御入場の、二階特別席にお着きの両陛下に、一階観覧席の県民は総立ちの格好で拍手とともに手を振っておむかえしていました。主演目の組踊「執心鐘入」は、能や歌舞伎の「道成寺(どうじょうじ)」と同じ起源をもち、首里城では1719年の上演記録をもつと言われている伝統芸能の最たるものですが、庶民に親しまれている「四つ竹」のほか伊江島に伝承されている村踊りも演じられました。この演目編成には陛下の次のお言葉を受けて県側の配慮があったと憶測されます。

「沖縄島や伊江島で軍人以外の多数の県民を巻き込んだ誠に無惨な戦闘が繰り広げられました。」「このような苦難の道を歩み、日本への復帰を願った沖縄県民の気持ちを日本人全体が決して忘れてはならないと思います。」(御即位10年に際してのお言葉　平成11年。)

「私が関心を寄せる理由は…」

そして"肝いり"の真相については、「私が沖縄の歴史と文化に感心を寄せているのも復帰にあたって沖縄の歴史と文化を理解し、県民と共有することが県民を迎える私達の務めだと思ったからです。」(同右)と仰せの事を私共肝に銘じなければなりません。

この大御心を知らされた某沖縄青年は「日頃の惰性的な生活に心の芯を入れられた思いをした」という感想をもらしていました。「国立劇場おきなわ」で鑑賞に堪能なさった両陛下は劇場通路でお見送りに並んでいる出演者達の前に来られたとき、一人の踊り子にお声を掛けられました。

陛　下「今日の踊り、大変有難う。何歳の頃から琉舞を習っていますか?」

踊り子「五歳の頃から習っています。」

陛　下「国立劇場の初の舞台でどのような気ちで踊りましたか?」

踊り子「両陛下の前で踊らせて頂けたことは夢のようで、神様に感謝し沖縄の伝統芸能を感動して頂けるよう一生懸命踊りました。」

これは当時を思い起こしてもらったN・Yさん(匿名希望)への取材による構成ですが、お側にお立ちだった皇后陛下からも「これからも沖縄のすばらしい伝統芸能を担って伝承していくように頑張って下さい。」とのお言葉を頂いています。本人は当時芸術大学の学生でありましたが、その大御心にお応えすべく精進努力の結果、いまや道扇流道扇会師範として斯界で活躍中です。

琉歌で御製賜る

この時のことを陛下は、

国立劇場沖縄に開き執心鐘入見ちやるうれしや

と、琉歌で御製を下さいました。早速沖縄県は「天皇皇后両陛下の開場記念公演御臨席は国立劇場おきなわ及び沖縄芸能界にとって歴史に残る出来事であり行幸啓を記念し後世に語り継ぐために御製碑を建立する」(公文書)として、玄関正面の野外芸能空間の左側に、茅原南龍師の揮毫による歌碑を建立し、3月17日除幕式が稲嶺知事以下関係者の列席のもと厳粛盛大に執り行われました。

おきなわ国立劇場前歌碑

わきかえる離島の奉迎

さて御来県第二日目の1月24日、両陛下は午前中、知的障害者のための社会就労センター「わかさ」(浦添市)を訪れられました。そして午後、特別機で初めて宮古島入りされました。陛下は常々離島や遠隔地の人達を訪ねたいという気持ちを強くもっておられ、侍従を通して「今回初めて宮古島、石垣島を訪ねることを楽しみにしています」とのお言葉が伝わったため、両島とも多くの人が沿道につめかけわきかえりました。因みに今回御来県に当たり八万七千四百四十人が出迎えたという公記録が残っています。稲嶺知事がこれに関して「これまで県民の皇室への感情は微妙なものがあったが、真心で接してこられたのを県民が実感してきたからだと思う。」という何とも瞑(めい)す難きコメントを発しています。

その宮古、石垣における行幸啓について紙幅の関係上記述できないことをおわび申しあげねばなりません。

1月25日(宮古島)午前、ティダファームたらま(城辺町)をご視察。午後、国立療養所宮古南静園(平良町)をご訪問。

1月26日(石垣島)午前、沖縄県水産試験場八重島支場をご視察。

でありました。この時の大御心は別の形でご紹介できますことを期待して擱筆します。　(了。)

お白石持行事に参加して

権禰宜　高良奈緒矢

この度、第六十二回神宮式年遷宮お白石持行事に参加させて頂きました。

お白石持行事とは二十年に一度の式年遷宮にあたって行われる行事の一つであり、新しい御社殿の敷地に伊勢を流れる宮川の河川敷から拾い集めた「お白石」を奉曳車に乗せて神域の石置場まで運び、新しい御社殿の御垣内にお納めするという行事です。

本来は旧神領地に住む人々のみが奉仕できるものでしたが、全国崇敬者にも特別神領民と奉仕の機会が与えられるようになりました。

まず奉仕の前日には二見興玉神社にて浜参宮を行い身を清めました。

二見興玉神社の夫婦岩

奉曳車

当日、集合場所には白い法被に鉢巻を巻いた人々で大変賑わっていました。指定された場所へ移動し、先導の方から木遣唄という唄と合いの手を習いました。御奉曳が始まると当日は三十度を超える炎天下にも関わらず、「エンヤ、エンヤ」という掛け声と木遣唄が力強く響き渡る中、内宮前に広がるおはらい町を宇治橋に向って進みました。宇治橋前に着くとまずは手水を行い、白布を受け取りその白布にお白石を包んで、新しい御社殿に向いました。御奉曳の賑やかな雰囲気とは打って変わって、玉砂利を歩く音だけが静かに鳴っており、厳かな気持ちでお白石を御垣内に納めることができました。

その後、おはらい町を少し観光した後、瀧原宮、多度大社を参拝しました。瀧原宮はすぐ横に静かな川が流れ、多度大社には大きな滝があり、お白石持ち行事で昂った心を落ち着かせるような清々しさが感じられ、とても良い一日の締めくくりとなりました。

翌日は愛知縣護國神社と熱田神宮に参拝させて頂きました。愛知縣護國神社は自由参拝の予定でしたが、快く受け入れてくれ、舞を含めた正式参拝の参列等、大変手厚くおもてなし頂きました。熱田神宮は三種の神器の一つ草薙神剣（くさなぎのみつるぎ）の御鎮座なさっている神社で境内はとても広く、伊勢神宮とはまた違った壮麗さがありました。

神宮内官

今回のお白石持行事に参加して、多くの神社を参拝させて頂いたのですが、どの神社も非常に特色のある神社で、とても勉強になりました。また、お白石持行事はおはらい町の方々、地元の人々、特別神領民として参加した人々の奉仕の心が強く感じられ、伊勢神宮によせる人々の思いが目に見えるようでした。

今回学んだことを今後の奉仕に活かしていけるよう、益々の研鑽を重ねていきたいと思います。

熱田神宮境内

みたま慰めの舞温習に参加して

巫女　大城未来

五月二十日から二十二日にかけて行われた、みたま慰めの舞温習に屋宜亜希子巫女と二人での参加させて頂きました。普段関わることの少ない他県の護國神社の巫女さんと交流し意見交換が出来、貴重な体験となりました。

温習では靖國神社の神職さんによる生楽ということもあり、皆それぞれ緊張の面持ちで稽古に挑みました。また、講師の春日先生の仰ることがこれまで舞の指導をして戴いていた当神社の前原権禰宜と同様の説明だった為、大変理解しやすく感じました。靖國神社の仕女さんの御指導のお蔭で自分の癖を発見することが出来、各所での動きに繊細さが必要だと実感致しました。ご指導が大変的確で分かり易かった為自然と舞いやすくなり、この三日間の温習期間に自分で想像していた以上に成長出来たのではないかと感じます。

空き時間には受講生のみで自主練習が行われ、自分も必死で習得して帰らねばならないと真剣に取り組みました。中には既に神前奉仕を行っている方もいたのでアドバイスを貰いつつ全員で協力しながらの自習となりました。

お稽古以外の活動に於いても、班ごとで行動する内に年齢も近いと言う事もあり打ち解けることが出来、より親睦を深められたのではないでしょうか。

因みに、朝の境内清掃にて普段では入ることの出来ない本殿裏の清掃を任され、草取りにも力の入る思いで奉仕致しました。また、月次祭に参列することが出来たのもいい経験となりました。今回の月次祭では温習受講生の為に特別に「みたま慰め二人舞」を舞って頂き、大変参考になるとともに、お祀りしている御英霊に舞を捧げるという真剣さは大変神聖で、私も神前奉仕するようになれば御英霊の為に全身全霊で舞わねばならないと身の引き締まる思いでその後の稽古に励みました。「みたま慰めの舞」は緩やかで可愛らしい舞に見えますが、太腿や脹脛などが筋肉痛を起こすほど難しいもので、出来なかった所作がこの三日間で出来るようになった喜びは大きかったです。これに満足せず、今後も舞の稽古を継続して行い御祭神に恥じない舞を舞えるよう努力していこうと改めて思いました。お世話になった靖國神社職員の皆様、共に温習に励んだ受講生の皆様に感謝すると同時に、忙しい社務の中巫女二人も温習に参加できたのは当神社職員の皆様のご協力のお蔭です。大変貴重な機会を作って頂き有難うございました。今回の経験を無駄にしない様、精進致しますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

社頭報告

第五十五回春季例大祭

四月二十三日午後一時、第五十五回春季例大祭が斎行されました。斎主伊藤陽夫宮司の祝詞奏上のあと、大祭委員長座喜味和則氏、沖縄県遺族連合会会長照屋苗子氏による祭文が奏上され、続いて茶道裏千家淡交会沖縄県支部の御奉茶、神職、巫女による「みたま慰めの舞」が奉奏されました。

祭典に先立ちまして、民謡歌手の田場盛信氏による奉納芸能が催され、舞台となった神楽殿前では一緒に踊り出すご遺族の方も現れ、大変盛り上がりました。

鶴澤美枝子氏国歌奉唱

六月十九日、声楽家で全国の神社仏閣など様々な舞台で活躍中の鶴澤美枝子氏による国歌奉唱及び歌謡の奉唱が行われました。

「私は日本人です。だから君が代を歌うのです」をスローガンに掲げ、「激戦地であった沖縄で、ぜひ自身の誕生日に歌わせてほしい」との強い要望によって実現しました。

十六才の頃にマリアカラスのレコードを聴いたことがきっかけとなって声楽家を目指したという同氏の歌声は、魂の叫びとして拝殿いっぱいに響き渡り、本殿に鎮まる十七万八千余柱の御英霊にも心地よく届いたことと拝察され、護国の大神もさぞかしお喜び戴いたことでしょう。

なお同氏の強い希望で、八月十五日のみたま祭りでも、力強い歌声が奉唱されました。

沖縄全戦没者慰霊祭

六月二十三日の「慰霊の日」、沖縄全戦没者慰霊祭を斎行しました。梅雨空の中、ご遺族、崇敬者、団体関係者等約百二十名の方々が参列するなか、斎主伊藤陽夫宮司の祝詞奏上の後、巫女舞奉奏、斎主他参列者による玉串奉奠が執り行われました。

今年は拝殿内にて「Kano&舞ヨーガ・キッズ」による子供ヨガ「Mindfulness 舞YOGA」の奉納が行われたほか、祭典開始前に伝統芸能を奉納する会(甲斐文一郎代表)による「筑前琵琶と朗読で語る『平家物語』」(琵琶奏者)寺田蝶美氏(朗読)岩城朋子氏の奉納が行われ、賑々しく慰霊の日の祭典が斎行されました。

また慰霊祭終了後に、県内の大学生で組織する「沖縄から日本を考える学生の会」が主催し、「殉国沖縄学徒顕彰祭」が行われました。

まず社務所ホールにて「島守・防人に感謝する集い」と題して、戦火に斃れた県出身学徒等の功績を偲び、その功績を顕彰する勉強会を行い、その思いを胸に、神前に於いて顕彰祭が行われました。

祭典では斎主伊藤宮司の下に大学生によって御遺詠と御遺文が奉読され、参列者全員で「海ゆかば」が斉唱されました。

明日を担う若者達の篤い思いに御英霊もさぞご安心された事と思います。

「みたままつり」の斎行

終戦記念日の八月十五日、「みたままつり」を、英霊にこたえる会沖縄県本部共催、県遺族連合会、日本会議沖縄県本部後援のもとに斎行しました。

まず、正午の時報にあわせ参列者全員で黙祷を捧げ、続いて天皇陛下の御言葉をラジオから拝聴し、国歌斉唱の後に祭典が斎行され、伊藤陽夫宮司の祝詞奏上に続き、英霊にこたえる会沖縄県本部会長仲宗根義尚氏が祭文を奏上しました。

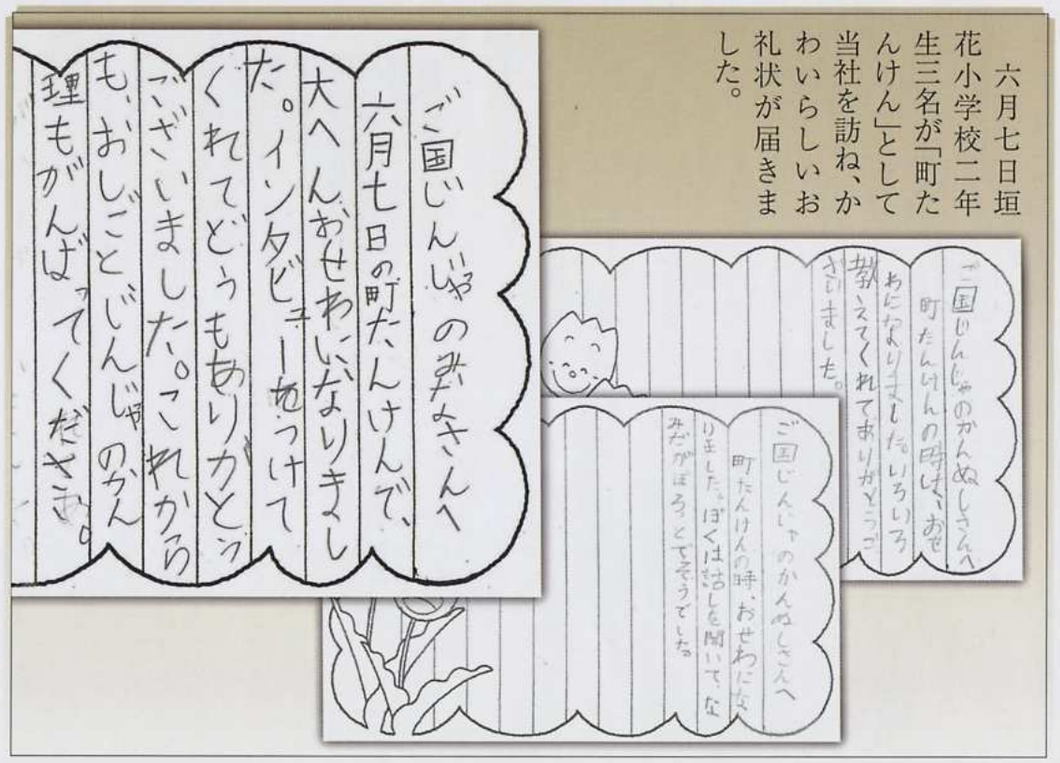
沖縄では、六月二十三日の慰霊の日を一般に終戦の日として認識しており、これまであまり多くの参列がなかったものの、伊藤宮司のもと徐々に県民に意識が浸透し、今年は御遺族を始め県選出の国会議員三名、会社団体代表など百四十名以上の方々が参列されました。

また、祭典終了後に文明評論家の中島英迪氏が「みたまへ感謝と顕彰を捧げる」の演題で記念講演会を行いました。講演の中で中島氏は、沖縄と昭和天皇との「絆」について触れ、皇太子時代のヨーロッパ御外遊の折、当初予定に入っていなかった沖縄行啓が実現したのは、その時の御召し艦の艦長であった県出身の漢那憲和提督の尽力に依るものであったことが紹介され、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

また開戦時のエピソードや、時代の流れの中で戦争回避がいかに困難だったかなど、当時の視点からわかり易く解説し、改めて今日の繁栄と平和は、礎となられた御英霊の御功績とその御加護によるものという思いを一にしました。

講演会終了後、中島氏を囲み出席者の皆さんと和やかに懇親を深めました。

六月七日垣花小学校二年生三名が「町たんけん」として当社を訪ね、かわいらしいお礼状が届きました。



社務日誌抄

平成二十五年四月～平成二十五年九月まで

4月

6日 参議院議員
　國場幸之助様　自由参拝
10日 修養団捧誠会
　総裁 出居徳久様 自由参拝
12日 株式会社シンテック祝賀会
　宮里事務局長出席
17日 熊野速玉大社
　宮司 上野顕様外三名正式参拝
18日 教育を考える会 自由参拝
21日 八代家・外間家神前挙式

八代家・外間家神前挙式

22日 **宵宮祭**
23日 **第五十五回春季例大祭**
25日 大阪府遺族連合会正式参拝
29日 **昭和祭**
29日 皇室崇敬会出版祝賀会
　伊藤宮司出席

5月

2日 沖宮例大祭 伊藤宮司参列
3日 茅原書藝會 正式参拝
5日 先天光神明宮
　例大祭 加治禰宜参列
15日 **沖縄祖国復帰記念祭**
16日 がんばれ日本全国行動委員会
　正式参拝
17日 波上宮例大祭 伊藤宮司参列
19日 茅原書藝會 正式参拝
19日 那覇遺族会 正式参拝
19日 復帰四十一周年記念大会
　宮里事務局長・前原権禰宜・
　木村権禰宜出席
19日 那覇市議会議員
　屋良栄作様 来社
20日～21日 みたま慰めの舞温習
　大城未来・屋宜巫女参加
27日 伯耆稲荷神社
　宮司 河合鎭德様自由参拝
28日 熊野本宮大社
　宮司 九鬼家隆様自由参拝
28日 熊野速玉大社
　宮司 上野顕様
　外三名正式参拝
30日 平成二十五年度
　第一回責任役員会

6月

9日 ことだま研究会 正式参拝
9日 茅原書藝會 正式参拝
17日 しづたまの碑慰霊祭
　座喜味会長参列、
　伊藤宮司・高良権禰宜奉仕
19日 鶴澤美枝子様 国歌奉唱
22日 台湾人戦没者慰霊の塔
22日 建立期成会 正式参拝
22日 埼玉県遺族連合会 正式参拝
22日 JYMA 正式参拝
23日 **沖縄全戦没者慰霊祭**
30日 **古神札焼納祭**
　水無月晦大祓式

水無月晦大祓式

7月

1日 嶺井政治理事タイムス賞祝賀会
　伊藤宮司 宮里事務局長出席
4日 明治神宮崇敬會 正式参拝
6日 茶道裏千家淡交会沖縄支部
　正式参拝
11日 明治神宮崇敬會 正式参拝
15日 「命どう宝」
　石碑建立実行委員会
　石原エミ様外2名
22日 (有)CMC 正式参拝
26日 お白石持行事
28日～ 宮里事務局長・
　高良権禰宜奉仕参加
29日 三善会 自由参拝

8月

2日 沖縄県神道青年会抜穂祭
　木村・高良権禰宜奉仕
3日 英霊にこたえる会沖縄県本部
　正式参拝
8日 総代会
12日 沖縄県傷痍軍人会清掃奉仕
13日 甲斐文一郎様 清掃奉仕
14日 波上宮 大山晋吾禰宜御家族
　正式参拝
15日 **終戦記念日みたま祭り**
15日 国際総合研究所
　代表 中島英迪様 正式参拝
15日 神社本庁 岩橋克二様
　石清水八幡宮
　権宮司田中朋清様外
　二名正式参拝
18日 群馬県遺族の会 正式参拝
22日 対馬丸慰霊祭 会長参列
30日 皇學館大学 河野ゼミ 正式参拝

9月

4日 明治神宮崇敬會 正式参拝
6日 明治神宮崇敬會 正式参拝
12日 明治神宮崇敬會 正式参拝
13日 県神社庁祭式研修会
　高良権禰宜参加
14日 霊友会 日本再生研修会
　正式参拝
16日 識名宮例大祭 局長参列
19日 皇學館大学 白山ゼミ正式参拝
22日 識名宮上棟祭 高良権禰宜参列
23日 **春季皇霊祭遥拝式**
27日 明治神宮崇敬會 正式参拝
29日 茅原書藝會 正式参拝
30日 紫鳳書道會
　会長柏木白光様正式参拝

永代慰霊命日祭新規申込者御芳名

平成二十五年四月～平成二十五年九月まで

沖縄県宜野湾市　當山　盛市　様
神奈川県小田原市　中津川尚一　様
神奈川県小田原市　富田　節子　様
愛知県津島市　野口　政裕　様

永代慰霊命日祭御供奉納御芳名

平成二十五年四月～平成二十五年九月まで

北海道札幌市　天野　喜美　様
神奈川県鎌倉市　関　政子　様
北海道札幌市　櫻井　朋子　様
北海道千歳市　工藤　イク　様
三重県志摩市　杉木　茂樹　様
福岡県盛岡市　瀬川　昭平　様
北海道美唄市　馬面　美枝　様
岐阜県岐阜市　江崎　明美　様
北海道札幌市　櫻田スミ子　様
三重県津市　吉川　つや　様
岩手県花巻市　瀬川　タエ　様
埼玉県鴻巣市　菊地　周一　様
北海道札幌市　絹川美智子　様
北海道函館市　伊藤　和子　様
愛知県豊橋市　杉浦　文子　様
北海道札幌市　中原みさを　様
北海道札幌市　古川　きみ　様
埼玉県さいたま市　福岡　英男　様
愛知県豊橋市　小野よし子　様
大分県玖珠郡　中島美千代　様
北海道札幌市　岩井川君子　様
福岡県喜多方市　田中　昭二　様
福岡県筑紫野市　今井　正己　様
沖縄県石垣市　瀬名波長宏　様
岡山県津山市　石川　好蔵　様
北海道札幌市　北村　孝子　様
北海道苫前郡　土田　千代　様
熊本県山鹿市　岡部　行秀　様
東京都調布市　米澤　務　様
北海道北見市　十良澤義治　様
愛知県豊橋市　牧　君子　様
徳島県阿南市　幸田　純子　様
宮城県黒川郡　菅原　義則　様
北海道上川郡　阿部　辰巳　様
熊本県熊本市　松尾　雪子　様
北海道札幌市　沼田　栄二　様
神奈川県三ツ沢市　松本　敬子　様
北海道函館市　対馬ミツエ　様
三重県伊勢市　村井　洋子　様
東京都江戸川区　岡田　昌久　様
千葉県市川市　松永修巳・利喜子　様
茨城県取手市　大塚　幸男　様
愛知県一宮市　後藤　修士　様
岡山県久米郡　布野　芳子　様
滋賀県甲賀市　宿谷　長次　様
三重県伊勢市　外山　とめ　様
滋賀県栗東市　堀池　四郎　様
埼玉県本庄市　高橋　貴子　様
沖縄県那覇市　新垣信正・喜美子　様
岐阜県下呂市　熊崎　つや　様
愛知県海部郡　気田　一郎　様
北海道網走郡　成田　宏　様
沖縄県那覇市　与那嶺文子　様
群馬県高崎市　江積　栄一　様
北海道札幌市　加藤　勤　様
愛知県津島市　加藤　恵一　様
埼玉県さいたま市　吉澤　吉治　様
京都府八幡町　斉藤　金蔵　様
沖縄県那覇市　森田　孝秋　様
福井県福井市　野阪　重信　様
沖縄県浦添市　濵松　昭　様
沖縄県豊見城市　宮良　慎三　様
大阪府堺市　惠　イクミ　様
島根県浜田市　大田　米一　様
沖縄県中城村　宮平オトメ　様

玉串料奉納者御芳名

（社務日誌抄掲載以外・順不同）

兵庫県芦屋市　中島　英迪　様
宮城県名取市　中川　禮　様
兵庫県神戸市　伊藤　豪　様
南風原町津嘉山　仲村渠安雄　様
東京都練馬区　佐々木真太郎　様
北海道苫小牧市　佐藤喜恵子　様
沖縄県沖縄市　崎濱　秀平　様
京都府福知山市　武田　一子　様
京都府祇園町　坂田　優子　様
念法眞教総本山金剛寺　大城由記子　様
那覇市長田　安本　肇　様
東京都板橋区　田中　晃三　様
京都市中京区　村尾　幸子　様
福井県大飯郡　石井　恒二　様
埼玉県春日部市　髙橋　忠子　様
埼玉県桶川市　臼田　智子　様
千葉県市川市　中澤　英雄　様
千葉県八街市　黒木陽一郎　様
北海道札幌市　竹川　チヨ　様
東京都足立区　竹川美智雄　様
熊本県山鹿市　森　英俊　様
大阪府大阪市　濱田　耕一　様
東京都青梅市　髙村　信夫　様

物品奉納者御芳名

神酒　田村　君江　様
鶏卵　沖縄鶏卵販売(株)　様
鮮魚　居酒屋「翔」　様
もち米　沖縄県神道青年会　様
泡盛　(株)久米島の久米仙　様
看板幕　(有)ミナミ商事　様
千羽鶴　徳島県遺族会女性部　様
イスノキ　仲村渠安雄　様

寄贈図書

「昭和天皇遺されし御製」
　一般社団法人 皇室崇敬会　様
「古宇利架橋ふるさとへの道」写真集
　伊波　前良　様
「世界遺産・聖地巡り」
　須藤　義人　様
「願いを祈りに」
　中澤　英雄　様
「歴史に学び未来を拓く」Ⅰ～Ⅲ
　愛媛県西条市遺族会　様
「中国が沖縄を奪う日」
　惠　隆之介　殿
「沖縄の島守」他七冊
　湊川神社松井英二　様

香典返し

沖縄市　仲宗根義尚　様

のぼり御奉納者

〈七対〉
沖縄県出店業事業協同組合 様

〈三対〉
沖縄特定免税店㈱ 様

〈二対〉
大鏡建設㈱ 様
㈲ミナミ商事 様

〈一対〉
英霊にこたえる会沖縄県本部 様
一般社団法人 沖縄海友会 様
具志堅グループ琉鵬会 様
オリオンビール㈱ 様
㈱南都 様
㈱京和土建 様
日本和裁士会沖縄県支部 様
㈲丸徳ガス産業 様
三協電気工事㈱ 様
㈱トラステック 様
久保田照子チャームスクール 様
㈱ビジネスランド 様
㈱仲本工業 様
一般財団法人 那覇青年会議所 様
沖縄トヨタ自動車㈱ 様
㈱沖縄銀行 様
沖縄ツーリスト㈱ 様
沖縄コカコーラボトリング㈱ 様
フォートプラザ 様
㈱うるま印刷 様
㈲仲宗根商事 様
ヤシマ工業㈱ 様
茅原書藝會 様
新報トラスト㈱ 様
㈲福岡奉製 様
グリーン産商㈱ 様
㈱屋部土建 様
㈱オカノ 様
㈱シンテック 様
㈱大八産業 様
㈱新建 様
沖縄三菱電機販売㈱ 様
たけや旗染店 様
シンバホールディングス㈱ 様
ホテルゆがふいんおきなわ 様
ABC沖縄放送宣伝社 様
街クリーン㈱ 様
㈲わかまつどう製菓 様
㈱チェリオ沖縄 様
㈱縁 様
㈲沖縄式典プランニング 様
㈲沖セレモニー社 様
㈱三宝社 様
㈱井上商店 様
㈱阿部 様
㈲西紀 様

春季例大祭(4/23) 秋季例大祭(10/23)
並びに正月三ヶ日に掲げます。

正月献灯募集のお知らせ

恒例となりました正月献灯を今年も募集しております。参道や境内に多くの提灯を掲げ、新年を明るくお迎しましょう。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

平成25年 七五三詣ご案内

男の子
かぞえ3歳(平成23年生まれ)
かぞえ5歳(平成21年生まれ)

女の子
かぞえ3歳(平成23年生まれ)
かぞえ7歳(平成19年生まれ)

神社へお参りし、お子様の健やかなご成長を祈念いたしましょう

今後の主な祭典のご案内

- 11月23日 新嘗祭
- 12月23日 天長祭
- 12月31日 大祓式・除夜祭
- 1月1日 歳旦祭
- 2月11日 紀元祭
- 4月23日 第56回春季例大祭

どなたでもご参列できます

編集後記

去年に引き続き、今年も沖縄本島や離島に台風が襲来し、その被害も少なくありません。しかし古くから沖縄では台風を「天災」とはせず、雨をもたらすありがたいものとしてきました。沖縄の人々は「天」を畏れ敬い「自然」と共存することが大切なことだと先祖から教わってきました。

最近の台風の動きをみますと、沖縄から台湾、中国方面へ、西へと移動しているものが多くなっているように思えます。尖閣諸島にうごめく邪気を追い払うように大陸へと向かう「天の怒り」に思えてなりません。

発　行　平成二十五年十月一日
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇-〇〇二六
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL　〇九八-八五七-二七九八
FAX　〇九八-八五七-七九一七
HP　www.okinawa-gokoku.jp/
編集担当　加治順人・髙良奈緒矢
印刷所　株式会社近代美術